

令和5（2023）年度 那須地区

家庭教育支援プログラム指導者フォローアップ研修実施報告

実施日：令和5年8月31日（木） 栃木県庁那須庁舎

本研修は、家庭教育支援プログラム指導者研修修了者を対象に、保護者の学びを支える「家庭教育支援プログラム」を実践するために必要な知識や技術の習得を目指しています。

○ 講話・意見交換「気になる子への対応 ～みんなが笑顔でいるために～」

総合教育センター幼児教育部 幼児教育指導員 野中 悦子 氏

研修の講師は、総合教育センター幼児教育部 野中 悦子（のなか えつこ）幼児教育指導員です。野中様は、宇都宮北部の上河内地区にある「ゆうゆう保育園」の園長先生です。ゆうゆう保育園では「子育て支援」という観点から、乳児保育や発達支援時保育といった多様な保育サービスを行っています。

講話では、保育園の現場経験から得られた、生きづらさを感じている子どもたちが自分らしく生活できるための手立てについて具体的な事例を挙げながら、貴重なお話をいただきました。

発達障害についての基本的な内容から、子どもたちにどんなふうに関わればよいのかについて、わかりやすく説明いただきました。子どもの自己有用感を育てていくのと同時に、親の自己肯定感をも育てていくことが大切で、「できた」という成功体験を積み重ねて、自分に自信をつけさせることが大切だと話されていました。そして、「自分は大切にされている」「自分は愛されている」と感じることができるように関わりが、大切だとも話されていました。また、「ペアレントプログラム」や栃木県発達障害者支援センター「ふぉーゆう」の事業についても触れられ、研修受講者である地域の家庭教育支援者が、子育てに悩まれている方を、必要に応じてつないでいくとよい相談窓口についても教えていただきました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・ 大変有意義なお話でした。毎日、感謝の言葉やほめ言葉を使うよう心がけたいと思います。
- ・ 自分の子育てに反省です。どんな子も個性有りということを知ることができました。
- ・ 楽しい講話で参考になりました。私の子も野中園長先生のような方に支援してほしいです。
- ・ 「気になる子はいますか？気になるって？」の質問が心に残りました。一瞬の関わりや出来事でどんな子が決めてしまっていないか、自分に問うゆとりをもっていたと感じました。
- ・ 子育ては、昔も今も基本的なことは変わらないと思います。ほめることの大切さを改めて感じました。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは、那須教育事務所ふれあい学習課まで

TEL:0287-23-2177 e-mail:nasu-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp